

## 1. 調査目的等

中学校全学年の生徒の学力を把握・分析し、学校における教育指導の成果と課題の検証やその改善及び進路指導に役立てる。

## 2. 学校ごとの指標

標準偏差値において、県の標準偏差値を上回る。

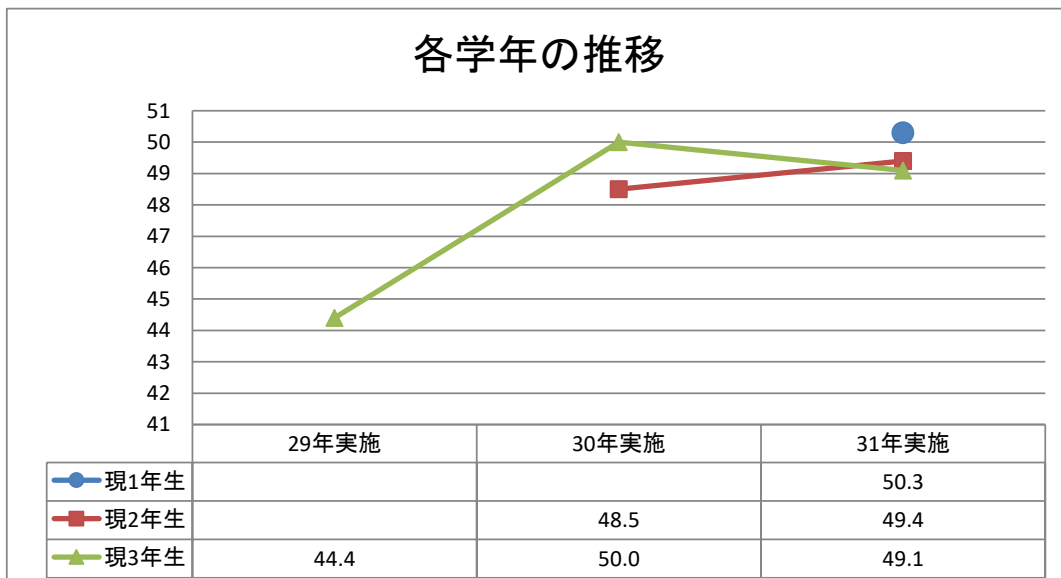
## 3. 指標にむけての取組

- 基礎・基本の定着
  - ・一単位時間の中で、学習内容の定着を図るミニテストを実施する。
  - ・計画的な朝学習の実施(基礎・基本の定着を図る問題をスモールステップで実施)
- 授業づくりの改善と家庭学習の質と量の向上
  - ・授業づくりと自学ノートの取組の連動と充実
  - ・週末課題における問題集の活用
  - ・個に応じた課題の提示
- 定期テストにB問題を取り入れるなどの見直しと、それに対応した授業づくりを協議する教科部会の実施
- 各教科における領域別の得点率などの細かなデータから、実態や課題を把握し、系統性のある改善策を立てる。
- 短期PDCAサイクルの実施
- 学力向上に向けた小中の連携(小中の学力向上コーディネーターの定期的な会議の設定)

## 4. 調査結果

※学校平均5年間の推移 (標準偏差値50に対して)

年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
本校(A)	44.3	45.0	45.3	48.8	49.6
嘉麻市(B)	47.0	47.3	47.9	49.3	48.8
(A)－(B)	-2.7	-2.3	-2.6	-0.5	0.8
標準偏差値との差 (A)－(50)	-5.7	-5	-4.7	-1.2	-0.4



## 5. 各学校における分析

- ・3年生はわずかに数値が下がったが、各教科の授業において、学習内容の定着を図るミニテストや自学ノートの取組を実施したこと、また、計画的な朝学習や個に応じた週末課題の実施により、ほぼ横ばい状態である。
- ・2年生は、入学時と比べてわずかに上昇している。3年生と同様の取組と、班学習などの教え合い活動が要因として考えられる。
- ・1年生は、過去にさかのぼったデータ比較でも、最も高い数値を示している。
- ・『ことば力』に関する資料としては、3年生において、習得レベルがB(L)「教科書内容の理解に相当の努力を要する」、またはC「教科書内容の理解に苦勞する」の生徒の割合が、44.2%を占めており、語彙力に課題がある。(学力の2極化の要因と考えられる。)

## 6. 各学校における今後の取組

- 基礎・基本の定着
  - ・一単位時間の中で、学習内容の定着を図るミニテストを実施する。
  - ・計画的な朝学習の実施(基礎・基本の定着を図る問題をスモールステップで実施)
- 授業づくりの改善と家庭学習の質と量の向上
  - ・授業づくりと自学ノートの取組の連動と充実
  - ・週末課題における問題集の活用
  - ・個に応じた課題の提示
- 定期テストに、自分の考えを書くなど思考力を問う問題を出題するとともに、そのような問題に対応できる生徒の育成を目指した授業づくりの推進を、教科部会を中心に進める。
- 各教科における領域別の得点率などの細かなデータから、実態や課題を把握し、系統性のある改善策を立てる。
- 短期的なPDCAサイクルの実施
- 授業規律の確立に向けた、稲築中学校区としての取組の推進(『授業の約束』の徹底)
- 学力向上に向けた小中の連携(小中の学力向上コーディネーターの定期的な会議の設定)

## 7. 嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- ◎今後の取組を具体化し推進することができるように、特に、次の3点について指導助言及び支援を行うとともに、周知徹底できるように継続的に指導する。
- ◆嘉麻市学力向上プランに設定した「家庭学習」を推進する。そのために、個に応じた学習課題の提示を進めるとともに、自学の習慣化に向けた具体的な取組の具体を提示する。
- ◆嘉麻市学力向上推進委員会に基づく学力向上検証改善委員会を開催し、「思考力・表現力等を問う定期考査」の実施、それに伴う授業改善を推進する。また、各学校が作成した「思考力・表現力等を問う定期考査」問題を交流する場を設定することで、質の向上を図る。
- ◆短期スパンでの検証改善サイクルを推進する。そのために、学力向上推進委員会を機能させる指導助言や支援を行う。また、学力向上推進員による若年層の教員を対象とした授業改善指導を実施する。